



出産・結婚祝い用に開発された「コウノトリ呼び戻す農法米」を使ったギフト商品



コウノトリが舞う里づくり構想の推進体制

### 【本取組における連携の状況】

本取組においては、地域の産業として「農業」との連携が強固に取り組まれています。自然再生のシンボルであるコウノトリの飛来・定着のためには、餌場の確保が重要であり、その餌場とは農地そのものになります。

越前市の取組においては、同市の行政計画のなかでこの取組を位置づけており、関係機関が連携して取り組まれる仕組みづくりができています。そうした背景もありながら、農業者だけでなく、JAや土地改良区といった、農業を支える関係者が一体となった取組になるよう仕組みられています。

## ◇ 連携のきっかけと連携の効果

本取組は、越前市農政課に設置されたコウノトリ共生室が中心になり、農業団体、地元団体、市民団体、研究者、関係行政機関を調整・推進されています。

越前市においては、古くよりコウノトリとの縁があり、これと呼び戻したいという地元の人々の熱心な思いが保護活動につながり、これに地元行政が応えて行政計画に位置づけたことで、推進力がさらに高まったと考えられます。そこには、一方的な「指示」ではなく、地元の熱心な方々が活動を積み重ねてこられたことと歩調を合わせ

た取組になっているといえます。この取組では農業が継続されることが自然再生の継続につながります。ここでは、農業者自らの努力もあり、さらに農業団体もこれを地域の特徴としてブランド化を推進し、市民団体やマスメディアが介在して消費者と農家をつなぐ架け橋も担っています。

ここでは、農業という地元産業を中心に、多様な主体が連携した仕組みが強固になることで、継続した自然再生につながってきていると考えられます。

### 《実施者の声》

#### ◆日和 佳政さん

(越前市産業環境部農政課 農村活性グループ)  
※事務局の立場から

コウノトリを呼び戻すという熱い気持ちが同調して発展してきたと思います。また、自然再生のためのビオトープづくりは耕作放棄地を止めたい地元の思いと合致していました。地元の方々の協力により成り立つことなので、専門的分野から不足することがあっても、無理を通さないよう心がけています。

#### ◆夏梅 敏明さん

(水辺と生き物を守る農家と市民の会 会長)

行政を含む多様な主体との連携により、人と生きものにやさしい無農薬のお米を皆さまにお届けしたいという思いを実現できています。協議会をきっかけに、応援して下さる企業の方々や交流を深めている県内の他の地域の方々と一緒に、さらに連携して取組を進めていきたいと思っています。

### 【引用・参考資料】

- ・コウノトリが舞う里づくり構想、平成23年、越前市
- ・コウノトリが舞う里づくり戦略、平成24年、越前市コウノトリが舞う里づくり推進協議会・越前市
- ・越前市ホームページ、平成28年1月末現在

# 権座・水郷を守り育てる会



## DATA

○事務局

白王町集落営農組合内

○対象地域

権座

(滋賀県近江八幡市 西の湖にある島、面積 2.5ha)

## 再生目標

この地域の象徴的存在である「権座(ごんざ、=唯一現存する、舟でしか行けない湖上の田んぼ)」での様々な取組を通じて、農耕文化と豊かな水辺生態系が調和した湖国の原風景、美しい癒しの空間を次世代に引き継ぐ。

## 自然再生の取組概要

権座・水郷を守り育てる会は、琵琶湖に浮かぶ島、「権座」における営農と酒造を通じて自然と地域を守る団体です。

この活動では、「権座」を中心に、50年の時を超えて復活した幻の滋賀県産酒米「滋賀渡船6号」の栽培や、こだわりの純米吟醸酒「権座」造り、酒副産物と旬の食材とのコラボレーションによる地産地消、ゼロエミッション型地場産業の仕組みづくり、水田魚道の設置によるゆりかご水田での琵琶湖固有の生態系保全等が取り組まれている。これらの取組を全国に発信して、「権座」「水郷」の存在や付加価値を多くの人々に「五感」で知ってもらい、ブランド価値を高めることによって、持続可能な地域農業経営と風景保全活動を展開されています。



権座プロジェクトの全体イメージ

## ◇ 産業と連携した自然再生の取組内容

権座・水郷を守り育てる会では、琵琶湖の内湖である西の湖に浮かぶ島の水田での稲作を核に、水辺の生態系保全が図られています。この取組では、農業と酒造業、地域団体が連携しています。

### ■酒米づくりと酒づくり

舟でしか行けない不便さから担い手に窮する権座において、地元の営農組合が権座での農業を引き継ぐこととなり、そこで酒米の作付けが始まりました(作付面積:1.5ha、収量:80~90kg)。

営農組合による酒米が栽培される一方で、近隣にある喜多酒造(株)の協力により、純米吟醸酒『権座』が醸造されるようになりました。この日本酒は、権座・水郷を守り育てる会の会員酒販店にて販売され、権座の収益の一部が権座での活動資金として寄付されています。

### ■ヨシ入り酒ラベル

権座のある白王地区と隣り合う円山地区は、今でもヨシ産業が営まれています。純米吟醸酒『権座』のラベル



純米吟醸酒『権座』



「権座」には舟で移動する

[引用・参考資料]

- ・権座・水郷を守り育てる会公式ホームページ、平成28年1月末現在
- ・喜多酒造株式会社公式ホームページ、平成28年1月末現在

には、この、西の湖のヨシを混ぜた和紙が使われています。さらに、ラベル用の和紙は、福祉施設にて手漉きで作製されています。

### ■魚のゆりかご水田

権座の水田には、水田魚道が設置されています。これにより、権座の水田では琵琶湖の固有魚であるニゴロブナをはじめとする在来の湖魚が水田にて産卵し、稚魚が安全に育つ「ゆりかご水田」となっています。

ニゴロブナは、古くから「鮒ずし」の材料として利用されており、水田でのニゴロブナの稚魚育成は、この資源回復にもなっています。権座の水田において1か月ほどニゴロブナの稚魚を育て、地元の子どもたちと一緒に西の湖に放流しています。



上：ニゴロブナの稚魚



右：ゆりかご水田

下：水田魚道



## ◇ ワンポイント

この取組では、舟でしか行くことができない「権座」での営農の継続が危ぶまれた際、地元の方々と営農組合が、ともに地域の宝を残そうと立ち上げられました。

この地を愛する地元の方々と営農組合が中心となって酒造会社と連携し、「地の物」の商業的つながりが継続的な仕組みになっています。

## 高安自然再生協議会



### DATA

#### ○事務局

大阪経済法科大学地域総合研究所

#### ○対象地域

大阪府八尾市

(北高安地域:大阪経済法科大学周辺(楽音寺・大竹・神立・水越地区)、中高安地域:中地区(大窪・山畑・千塚・中高安台地区)、南地区(服部川・郡川・上住宅地区)、南高安地域:神宮寺、八尾市久宝寺緑地、恩智川と恩智川に流れ込む小河川)



ニッポンバラタナゴ(環境省RL:絶滅危惧IA類)のオスとドブガイ



無農薬栽培による伝統的な河内木綿の再生



### 再生目標

高安地域では、稲作や花卉栽培が地場産業として盛んであり、大小400ものため池があり、ニッポンバラタナゴを含む生物多様性が維持されてきた。高安山の里地・里山のため池を利用する新しい水循環システムをつくり、伝統的な“ドビ流し”を持続していくことで、自然遺産であるニッポンバラタナゴを未来の子どもたちに継承する。

### 自然再生の取組概要

高安自然再生協議会では、ため池の改修やピオトープづくり、伝統的な溜池管理法“ドビ流し(池干し)”の伝承により、地域の生物多様性を維持し、地場産業である河内ブナやモロコ等の有用養魚を活性化が目指されています。

かつてつくられていたフナの昆布巻き、ヨシノボリやモロコと大豆を炊いたジャコ豆、ドブガイやスジエビの佃煮等の特産と合わせた活用の復活が進められています。

また、放棄地を利用した和綿(伝統的な河内木綿の材料)の無農薬栽培に取り組まれています。



左上:フナの昆布巻き  
上:ジャコ豆  
左:ドブガイの佃煮



NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会による環境教育の実施

## ◇ 産業と連携した自然再生の取組内容

高安自然再生協議会では、高安地域にあるため池のドビ流し等の活動を通じて、ニッポンバラタナゴを保全しています。この取組では、NPOが核となり、農業者と大学が連携しています。

### ■大阪経済法科大学「ふれあい池」のドビ流し

環境アニメイティッドやおと大阪経済法科大学環境研究会ECO～る∞KEIHOが中心となって取り組む「高安山保全プロジェクト」の一環として、大阪経済法科大学構内の「ふれあい池」においてドビ流しを実施。専門家や学生、教職員、八尾市役所や地域の方々等約100名が参加しています。



上：「ふれあい池」のドビ流し

左：「ふれあい池」のニッポンバラタナゴ

ドビ流しにより、ニッポンバラタナゴの産卵に必要なドブガイが増殖



高安山森林整備

[引用・参考資料]

- ・高安自然再生事業の全体構想(案)
- ・NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会ホームページ、平成28年1月末現在

### ■きんたい米の販売

大阪府高安地域で特定の農家が栽培した“きんたい米”を(NPO)ニッポンバラタナゴ高安研究会が販売しています(きんたいはニッポンバラタナゴの地方名、稲が水をもっとも必要とする時期にニッポンバラタナゴが生息するため池の水を引き入れて栽培されたお米だけをきんたい米とする)。きんたい米の売上げやタナゴ基金(募金(1口1,000円～)やオリジナルグッズの販売利益)により、保全活動費に充てられています。

### ■水循環系健全化のための森林整備

高安山の健全な水循環系を保全するために森林インストラクター阪奈会のメンバーの指導のもと、“環境アニメイティッドやおと”に参画する市民団体や大阪経済法科大学等により森林整備(下草刈り、間伐材による土留め等)が実施されています。



きんたい米

## ◇ ワンポイント

この取組では、古くから行われているドビ流しと呼ばれる池干しの再生によりニッポンバラタナゴをはじめとする多様な水生生物が再生されています。NPOが核になりながら進められてきた取組は、農業者・大学を巻き込みながら、それぞれにメリットが付与される、継続した連携取組となっています。

## 神於山保全活用推進協議会



### DATA

#### ○事務局

大阪府岸和田市

#### ○対象地域

大阪府岸和田市神於山

(市道福田内畑線と府道岸和田港塔原線によって区切られた面積約180haの範囲)

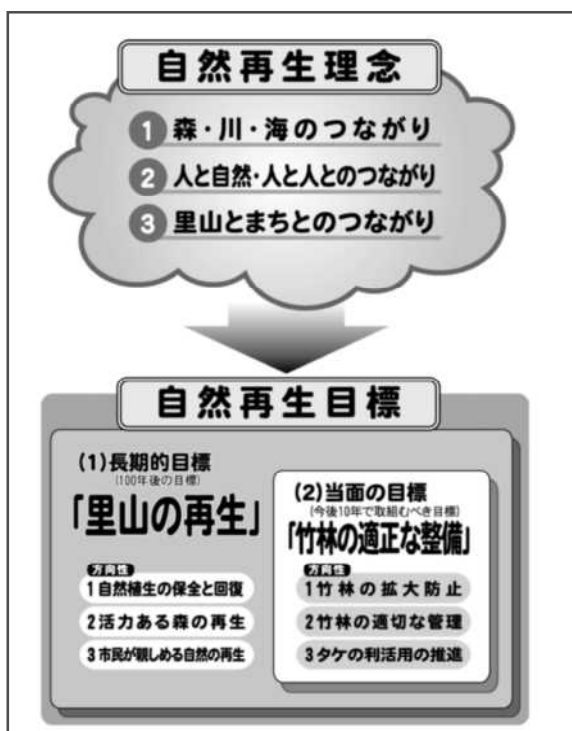
### 再生目標

「森・川・海のつながり」「人と自然・人と人とのつながり」「里山とまちとのつながり」を3つの理念とし、長期的目標(100年後の目標)としての「里山の再生」と、当面の目標(今後10年で取り組むべき目標)としての「竹林の適正な整備」を提示

### 自然再生の取組概要

神於山では、岸和田市の呼びかけをきっかけに設立されたボランティア団体により里山の保全活動が行われました。平成16年には、法定協議会として神於山保全活用推進協議会が設置され、NPO・ボランティア団体、町会、企業、ロータリークラブ等の地域の団体や、小学校をはじめとした教育機関の参画による荒廃した森林の整備や施設(作業車道、歩道、施設、標識)の整備が進められています。

また、多くの関係団体や教育機関が神於山を舞台に、環境学習を推進されています。



神於山の自然再生理念と目標  
(神於山地区自然再生全体構想、平成16年)

### 【神於山自然再生活動指針】

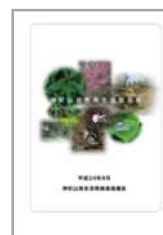
神於山保全活用推進協議会では、平成24年8月に『神於山自然再生活動指針』を策定し、神於山の森林目標を再設定し、多様な団体の連携により、新たな課題を乗り越えていくこととされています。

#### ◆ 組織づくりと企画の充実による活動団体の連携

- 1) 部門設置などの組織づくりによる連携
- 2) 合同活動やイベントによる維持管理での連携
- 3) モニタリング調査の実施による連携
- 4) 団体の得意分野を活かした環境教育での連携

#### 【新たな参加者(団体)の獲得】

- 1) 情報発信による地元住民の参加増進
- 2) 連携を通じた市内活動団体の参画促進
- 3) イベント開催による協議会団体のメンバー増加
- 4) 社会貢献(CSR活動)を目的とした企業の参画推進



神於山自然再生活動指針の内容  
(神於山自然再生活動指針、平成24年)

## ◇ 産業と連携した自然再生の取組内容

神於山保全活用推進協議会では、都市化が進む岸和田市に残る貴重な里山の自然を守り育てる活動が展開されています。

神於山には、多様な企業が参加しています。この取組では、行政(大阪府・岸和田市)がコーディネート役となり、多数の企業と連携しています。

### ◆ シャープの森(2.1ha)

シャープ(株)は、アドプトフォレスト制度活用大阪府域第1号として、平成18年4月、岸和田市、大阪府と調印し、植林と育林、整理伐採に加え、ピオトープや竹ベンチづくり等に取り組まれています。

5年が経過した平成23年4月には、新たな取組として生物多様性を視野に入れ、「フクロウが棲みつく生物多様性豊かな森」を目標に再度、活動宣言書に調印されています。



シャープの森



G E N K I の森

### ◆ G E N K I の森(2.0ha)

住友ゴム工業(株)は、平成21年1月に岸和田市、大阪府と調印し、平成20、21年度に地拵えと郷土種の植栽が行われています。現在は、除間伐や下草刈り等、“元気な命を育む里山”を目指し育林活動が行われています。



丸紅の森

### ◆ 丸紅の森(1.0ha)

丸紅(株)は、平成23年12月に岸和田市、大阪府、(NPO)神於山保全くらぶと調印し、地元NPOと協働で山の活動が実践されています。NPOと企業の協働は、企業参画の新しい形であり「丸紅方式」として注目されています。「丸紅の森」では、放置された竹林を適正に管理し、モミジやツツジ等の落葉広葉樹を植栽し、季節で楽しめる里山を目指して活動されています。

## ◇ ワンポイント

この取組では、自然再生全体構想が策定されたのち、活動が推進される過程で、「自然再生活動指針」が独自に作成されています。新たに設置された指針では、多様な団体との連携による活動推進が明文化されており、これに基づき、行政や多様な企業が連携し、活動が継続されています。

### [引用・参考資料]

- ・神於山での活動について、岸和田市ホームページ、平成28年1月末現在
- ・神於山地区自然再生全体構想、平成16年、神於山保全活用推進協議会
- ・シャープ株式会社広報部ブログ、平成28年1月末現在
- ・丸紅株式会社ホームページ、平成28年1月末現在

## 西条・山と水の環境機構



### 再生目標

東広島やその近辺の文化や産業を育んできた水をいつまでも享受し、美しい故郷を次の世代へ手渡していくことを使命とし、森林や小川、池、田畑等、山や水を取り巻く環境の保全・育成に寄与していく。

### DATA

○事務局

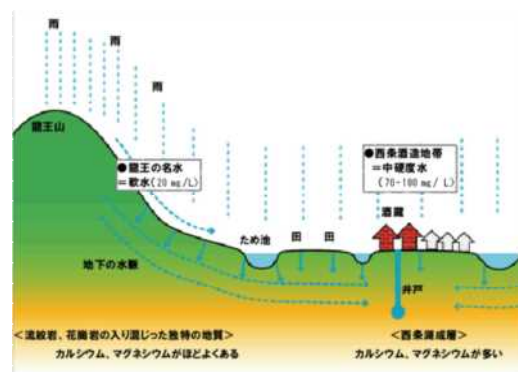
西条酒造協会内

○対象地域

広島県東広島市

### 自然再生の取組概要

活動・学習・交流拠点として、東広島市憩いの森公園(龍王山)において、年間5回程度の山と水をテーマにしたグラウンドワークを実施している。市民、行政、大学等と力を合わせ、山づくり、水づくり、美しいふるさとづくり運動に取り組む。



西条の酒造名水ができる仕組み(仮説)



シンボルマーク

“私たちの身近にある山や水や田んぼをいつまでも大切にしていきたい。”との思いが込められている。



賀茂泉酒造 次郎丸井戸



山のグラウンドワークの実施

■実施記録	
回数	74回
参加人数	延べ11,094人
作業面積	延べ235,100㎡

※2015.11.25現在

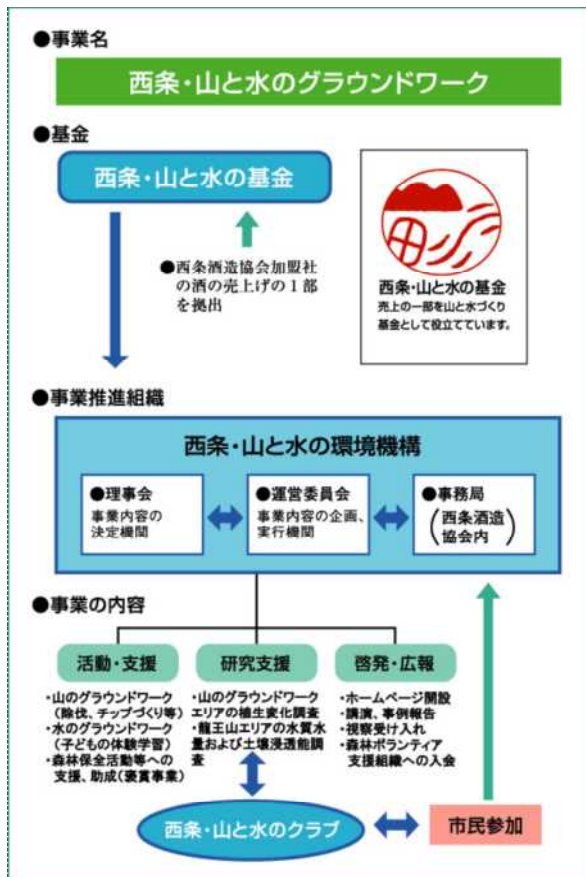


## ◇ 産業と連携した自然再生の取組内容

西条・山と水の環境機構では、西条盆地を取り囲む里山の整備や里山から涵養される地下水の調査研究に取り組まれています。この取組では、この地域に歴史ある産業であり、「水」を事業の柱とする酒造業団体と、大学研究機関等が連携しています。

### ■ 西条・山と水のグラウンドワーク

西条・山と水の環境機構は、グラウンドワークの手法により運営されています。事業の方向づけと決定は、西条酒造協会関係者と行政、市民、地元の大学関係者で構成される、理事会と運営委員会で、活動は西条・山と水の環境機構を事業主体とし、産官学民の協働によって行われています。

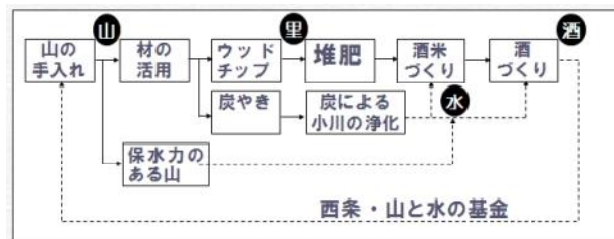


山と水のグラウンドワーク事業実施イメージ

### ■ 清酒売上金からの拠出と報償の実施

西条・山と水の環境機構の活動は、西条酒造協会(8社)の清酒の売上げの一部を拠出した基金によって運営されています。

この基金は、酒造組合に加盟する酒造会社から酒1升の売上げにつき1円を拠出して運営されています。それをもとに、水源となる里山林の整備、そこで出る木質資源の活用(堆肥化し酒米用水田に施肥、炭にして水質浄化等)、流域の里山林整備活動団体への報奨、環境教育、森林整備と水質に関する調査研究等が実施されています。また、この基金の一部は、東広島市や周辺地域の河川流域で環境保全・育成に取り組む団体・グループの活動を応援するために、「山水大賞」「山水賞」として表彰し、活動を助成する報奨制度も持っています(平成28年度は、総額100万円以内の活動資金の提供を予定)。



山や川の手入れと酒づくりの循環関係

## ◇ ワンポイント

この取組により整備される里山には多様な生物が息づき、盆地の豊かな水を涵養します。里山が涵養する水は田畑を潤し、水田やため池の生態系も守っています。この取組は、水・酒・里山の自然という地域の宝を守る気持ちが、酒造会社・大学研究機関等であつとなり、相互の力を出し合い推進されています。

[引用・参考資料]

- ・西条・山と水の環境機構ホームページ、平成28年1月末現在
- ・農山村支援センター&共存の森ネットワークホームページ、平成28年1月末現在

## 企業組合こもねっと



### DATA

○事務局

企業組合こもねっと

○対象地域

愛媛県宇和島市蔭淵(こもぶち)

### 再生目標

蔭淵湾の活性化

合言葉“食べよう蔭淵特産品!!広げよう蔭淵ネットワーク”

「蔭淵を元気にしたい」「手塩にかけて育てた鯛や牡蠣を食べて頂きたい」「子供たちに美しい蔭淵の自然を残したい」「蔭淵から離れて暮らす人と蔭淵で暮らす人とのふれあいの場所にして頂きたい」「海を核とした元気な地域づくり」

### 自然再生の取組概要

- ① 地域密着型情報誌「コモマガ」の発行…こもぶちマガジン  
コモマガ年3回発行
- ② 地域イベントへの協力…蔭淵地区・宇和島市のまつりやイベントへの参加・出店
- ③ 特産品の販売…蔭淵の新鮮な魚介類(鯛・岩牡蠣等)を産地直送で発送。真鯛の加工食品(一夜干し等)の販売。
- ④ 蔭淵湾活性化プロジェクト…清掃活動や藻場再生事業の実施



地域情報誌「コモマガ」イメージ

## ◇ 産業と連携した自然再生の取組内容

企業組合こもねっとは、蔣瀨湾(こもぶちわん)の豊かな海産物を育む海の自然環境の保全と地域の活性化に取り組む事業体です。過去30年で人口が半減した地域を、水産養殖業、水産加工業者や地域の個人が連携した企業組合の形態で、海の恵みの維持と地域の再生取り組んでいます。

### ■ 蔣瀨湾活性化プロジェクト

#### ○ ガンガゼウニの駆除

企業組合こもねっとでは、地域の活性化には水産資源の確保・改善が不可欠であるとの考えから、漁場被害の問題が深刻化しているガンガゼウニの駆除等を実施し、漁場の再生に力を入れています。また、モニタリングの実施により、自然環境が良好に維持されているか確認されています。



ガンガゼウニ駆除



体験型環境学習

#### ○ 体験型環境学習の実施

企業組合こもねっとでは、地域の豊かな自然環境を守り伝えるため、地元学校での体験型の環境学習を定期的に行い、海を守ることの大切さを次の世代に伝えています。

#### ■ 特産品の販売

企業組合こもねっとでは、地元で生産され、かつ大手の会社が取組みまない「真鯛の一夜干し」をはじめとする、地元ならではの水産加工物等の販売に取り組まれています。

これにより、地元の衰退しがちな産業を支えるとともに、活動の資金にもなっています。

#### ※ 企業組合とは？

企業組合とは、事業者、勤労者、主婦、学生等の4人以上個人が組合員となって互いに資本と労働を持ち寄り、自らの働く場を創造する組織です。いわば、個人が集まり創業し、自らの安定した就業の場を創り出すことを目的としています。

組合は公益性の高い組織であるため、行政や各種中小企業施策の支援を受けたり、税制優遇措置も適用されます。「まちおこし・むらおこし」の地域活性化への取組等、地域社会の課題解決を担う組織としても注目されています。

#### ◇ ワンポイント

企業組合こもねっとでは、地域外に転出した方に地元の細かな地域情報を満載した地域密着型情報誌「コモマガ」を発行し、地元と地域外の方々の橋渡しとなり、購買活動をはじめ域外からの応援を得て活動されています。組合構成員が、知識・知恵、資金等の自らの力を持ち寄ることで継続した取組になっています。

[引用・参考資料]

・こもねっとホームページ、平成28年1月末現在

・創業企業事例集「起こす150 "地域を起こす創業企業"」、平成27年、日本政策金融公庫

## 恩納村コープサングの森連絡会



### 再生目標

恩納村の漁業資源の活用を通じて、恩納村漁協のサンゴ再生事業を支援し、連携の力で、海の環境を守り育む「里海づくり」を推進する。

### DATA

○事務局

(株)井ゲタ竹内

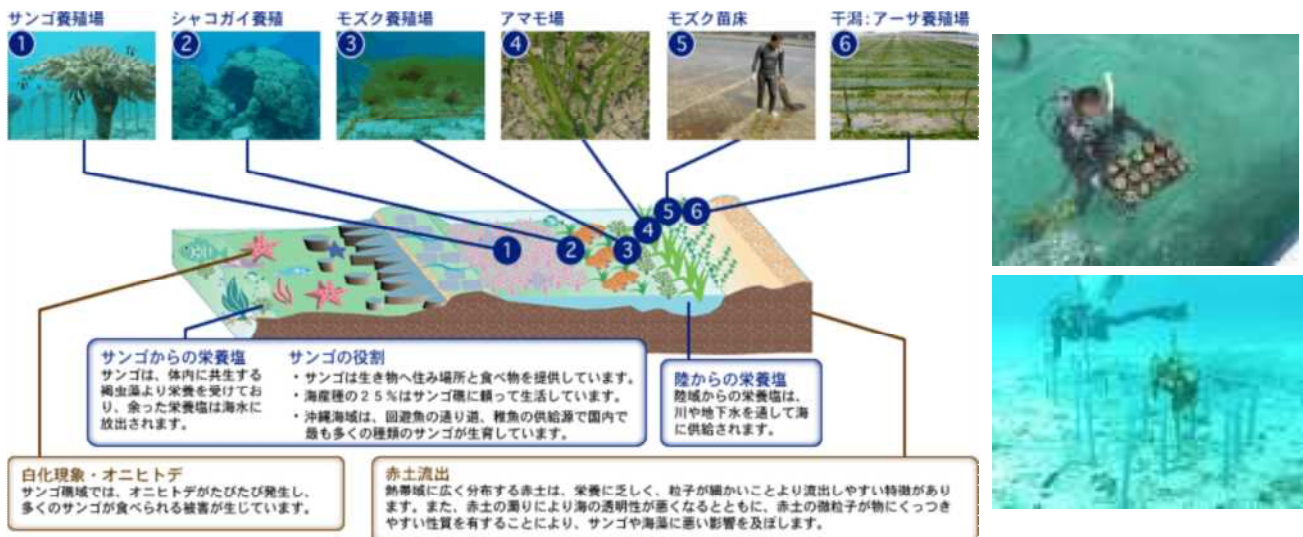
○対象地域

沖縄県恩納村

### 自然再生の取組概要

沖縄県恩納村におけるサンゴ礁の海を育むため、連携(共同)して次の事項に取り組む。

- ・サンゴの再生産を促すため、サンゴ養殖と植え付け活動を行い、協働して「里海づくり」に取り組む。
- ・都市と漁村の人的交流を推進する取組を通じて、地球環境と生命の源である海を守り豊かにする。
- ・産地と連携し、恩納村産の品質の良い生産物を使い、安心・安全・健康に資する商品を提供者に提供する。



恩納村漁業協同組合の里海づくり（サンゴ礁再生事業）のイメージ



サンゴ礁再生基金関連商品（左・中央）とラベル（右）

## ◇ 産業と連携した自然再生の取組内容

恩納村コープサンゴの森連絡会は、沖縄のサンゴが生息する豊かな里海づくりに取り組んでいます。この取組では、もずくを採取する漁業協同組合、それを加工する加工業、販売する小売業が連携しています。

### ■サンゴ礁再生の基金

(株)井ゲタ竹内では、同社で加工するもずく商品の原料を沖縄県恩納村から供給を受けています。その際、かつてより、単に仕入れるだけでなく、恩納村漁業協同組合が取り組む海の保全活動にも支援していました。

「サンゴ礁再生の基金」は、そうした活動に賛同したコープと、そして地元行政である恩納村、もずくを生産する恩納村漁業協同組合、加工販売をする(株)井ゲタ竹内が連携して設置されました。基金対象商品として販売された「味付もずく」を中心とする商品代金の一部が基金となります。そして、この基金に集まった資金をもとに、沖縄のサンゴ礁再生事業が取り組まれています。

### ■恩納村漁業協同組合によるサンゴの保全・再生

恩納村コープサンゴの連絡会の構成員の一つ、恩納村漁業協同組合は、もずくを採取することを生業とする漁業者です。一方で、もずく基金で集まった資金を活用し、サンゴの保全や再生の研究に着手し、恩納村、商工会、村内事業所、県内観光関連事業者等と連携してサンゴの植え付け等に取り組んでいます。



サンゴの苗（左）と魚がすみ始めたサンゴ苗（右）

[引用・参考資料]

- ・恩納村コープサンゴの森連絡会ホームページ、平成28年1月末現在
- ・生活協同組合連合会コープ中国四国事業連合ホームページ、平成28年1月末現在
- ・生活協同組合連合会東海コープ事業連合ホームページ、平成28年1月末現在
- ・株式会社井ゲタ竹内ホームページ、平成28年1月末現在

年度	パルシステム	コープCSネット (生活しまね)	東海コープ
2010年	1300本	40本 (生活しまね)	23本
2011年	2000本	520本	104本
2012年	1000本	780本	208本
2013年	1000本	800本	247本
2014年	1000本	680本	260本
2015年	1000本	710本	260本
合計	7300本	3530本	1102本

### 「サンゴ礁再生基金」によるサンゴ植え付けの数量

### ■コープによる消費者への購買活動を通じた普及啓発

#### ○参加団体

現在、コープの連携として「コープCSネット(生活協同組合連合会コープ中国四国事業連合)」、「パルシステム(パルシステム生活協同組合連合会)」、「東海コープ(生活協同組合連合会東海コープ事業連合)」の3団体が連絡会という形で活動をしています。この他にも、この活動を支持される団体は全国に広がっています。

#### ○活動の内容

サンゴ礁再生のために集められた「基金」は、主にサンゴの植え付けの資金となります。サンゴの苗を恩納村の海に植え付け、サンゴを育てることで、3～4年で産卵します。この地から海流に乗って卵が拡散することで、広域のサンゴ礁が再生されます。2010年から始まったこの活動は、多くの方にこの取組を知っていただくため、会員生協での生産者交流会、(株)井ゲタ竹内の協力による「商品学習会」、消費者が産地に赴いての生産者交流やサンゴの植え付け等を行っています。苗の本数は、活動を支持される全国のコープの皆さんのサンゴ植え付けを合わせると、2015年度で、約13,000本となりました。

## ◇ ワンポイント

サンゴの海では多様な生物が生まれ、また、豊かな海の恵みをもたらしてくれます。しかしながら、環境の変化による海へのダメージは、たびたび発生しています。一般の方ではこの保全活動に直接携わることにはできませんが、この取組では、サンゴを守り育てる活動として、食品加工・小売業と漁業者が連携し、さらに、積極的に一般消費者が参加することで、地域や行政も巻き込んだ循環する取組となっています。



## 地域の産業団体等と連携した自然再生の取組事例集

発行28年3月

環境省 自然環境局 自然環境計画課  
〒100-8975 東京都千代田区霞が関1-2-2  
TEL:03-5521-8343 FAX:03-3591-3228

環境省自然再生事業についてのホームページ

環境省ホームページ

[http://www.env.go.jp/nature/saisei/law\\_saisei/index.html](http://www.env.go.jp/nature/saisei/law_saisei/index.html)

